

安全のトピックス

- ・1月6日エンジンカッターで切断作業中に刃が首にあたり死亡する事故が発生
- ・10月22日に第47回全国建設業労働災害防止大会が仙台で開催決定
- ・1月14日建災防安全祈願祭で工事の安全を祈願しました
- ・平成21年の休業4日以上又は全治30日以上の負傷者14名となる



寒い時期の健康管理に御注意を

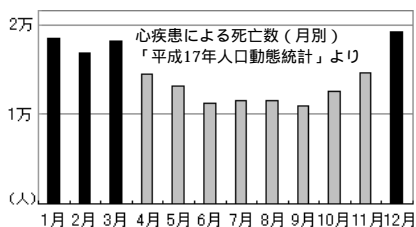
作業中の病死

昨年末から今年にかけて、作業中に労働者が急死する案件が複数発生しました。ほんの数分前まで同僚と話しをし、その後現場で倒れているのを発見されたという案件です。心筋梗塞等が原因ですが、同僚や上司もさることながら御家族のショックは計り知れないものだと思えます。

心筋梗塞は、心臓に血液を供給する血管が動脈硬化により狭くなり、血栓の発生などで血液が流れなくなり、心臓の筋肉が壊死する病気です。さっきまで元気でも、突然に起こり命を奪うこともある恐ろしい病気です。

寒い時期は要注意

特に寒い時期は、心筋梗塞の発生が倍になると言われており、気温が低いことや、温度差が大きいことが原因となります。



1. 防寒対策

基本的なことですが、寒ければ無理をせず、厚着をしたり、首巻きすることが有効です。しかし作業の安全上、動きづらくなるのも

問題なので、最近では薄くても保温性が高いインナーが各種ありますし、ネックウォーマーも有効だと思います。



ネックウォーマー

2. 温度差の防止

一般的な現場であれば、屋外での作業がほとんどですので、温度差は少ないですが、建築・設備関係の現場となると場合によっては温度差が大きくなる現場も想定されます。できるだけ、寒い所と暑い所を行ったり来たりしないような作業計画や人員配置を立てるのが有効です。

3. 健康状態の把握や健康管理

健康診断を定期的実施し労働者の健康状態を把握し、治療させるなどが基本ですが、毎朝、健康状態を確認して、体調が悪ければ作業させないことが大事です。また会社として健康管理に関する教育を行うことも大事です。

一人作業の危険

一人で作業している最中に発症した場合、倒れてから発見されるまで時間を要する場合があります。速やかに対応していれば助かったのに、発見が遅れて死亡してしまうことも考えられます。病死に限ったことではなく、一人作業での労災案件が非常に多いで

す。人員に余裕が無いこともあるでしょうが、1人作業することで、不安全行動をしやすくなってしまったり、事故が起こった際に発見が遅れる、原因が分からなくなるなど、問題があります。できる限り複数で作業することが望ましいです。

自動体外式除細動器(AED)

最近AEDを完備する現場が増えてきています。今回の案件でもAEDが使われたようです。AEDは電気ショックをするだけの機器ではなく、心電図をとり電気ショックが必要かどうか自動で確認してくれます。操作もすべて音声で案内してくれますので、近くにある際は積極的に利用しましょう。現場に備え付けるのが理想的ですが、高価な機器ですので、一番近い所にあるAEDを確認しておくといいでしょう。学校や公共施設に設置されているほか、路上や自動販売機に設置されていることもあるようです。他にも日頃から心臓マッサージや人工呼吸の訓練・講習を受けておき、備えましょう。安全教育の一環として、職場単位で消防署に依頼して普通救命講習を全員で受講するというのも良いと思います。